

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net>

判決は、罰金50ドル

美澄の裁判体験記

私が事故を起こしたことは前号でお知らせしましたが、10月8日に裁判所に行ってきました。9時が指定時間だったので8時に家を出て、8時半には裁判所に着きました。受付に貼ってあった紙に交通関係は3階の3Cと書いてあったので3階までいこうとエレベーターに乗ると、乗り合わせたおばさんが、「9時からだからまだ時間があるわよ。リストが貼り出されているからね。」と教えてくれました。部屋の前に行くと8時50分頃リストが貼り出され、私の名前は、アルファベット順のリストの最後から2番目にありました。浩司さんの時はアルファベット順で最後の方だったと言っていたのを思い出し、私も最後の方かと思いながら、裁判が行なわれる部屋に入ってきました。

部屋に入るとまだ裁判官は来ておらず、警察官や裁判所の職員(?)がいるだけでした。9時15分頃裁判官が入廷、「起立」と言う掛け声とともに一同起立して、「着席」と言われ着席しました。この時点で浩司さんは来ておらず、通訳無しで大丈夫かな?と心配しつつ、当分順番は回ってこないと思いのんびりしていたら、裁判官が「裁判料は通常42ドルで支払う場所は2階です…」などと説明を始めました。次に私を担当してくれた警察官が呼ばれ(Mr. Chananie)、「私の他にも呼び出されている人がいるんだな。」と思っていたら、裁判官が私の名前を呼ぶではないですか!慌てて前に出ると、「あなたは車をぶつけた罪を認めますか?」と裁判官が聞くので、「はい、罪を認めます。(guilty)」と答え、次にMr. Chananieが「彼女は9月2日午後5時に東に向かうリーハイウェイとシカモア通りの交差点の近くで停まっている車にぶつかりました。」と説明し、裁判官が「その通りですか?」と聞いたので「はい、ぶつかりました。」と答えたら、「罰金50ドル」と言われ裁判は終わりました。あまりにも短い時間だったので、「これで終わりですか?」と聞いたら「そうだ」と言われ退廷しました。

担当警察官が罰金を払う部屋に親切にも!案内してくれて、罰金97ドル(法廷料と罰金の合計)を払って、無事釈放。子供達を幼稚園に送り届けて裁判所に丁度入ろうとしていた浩司さんを見つけて帰りました。

浩司さんには裁判用語などがわからないといけないと思いつき添いをお願いしていたのですが、子供を学校に送っていく関係で後から来ることになっていました。結局は間に合わず、それほど難しいことも聞かれず、無事に終わりホッとしました。これにて一件落着!(美澄)

連続狙撃犯の恐怖

連続狙撃事件は3週間振りに解決されたけれど、あれにはテロ以上に恐怖を覚えた。特に、10月14日の夜に我が家から2マイル(約3km)ほどしか離れていない「セブン・コーナー」ショッピングセンターの駐車場で狙撃事件が起きた時は、正直な話、家族だけでも日本に帰そうとかかなり真剣に思った。アメリカ連邦政府の施設や人が多く集まるような場所に行かなければ爆弾テロの危険は取り合えずは回避できるが、ガソリンスタンドで給油しているところ(こちらはセルフ給油なので)とか、スーパーで買い物したりレストランで食事したりして駐車場に行くところとかを遠距離から狙い撃ちされたら、

いくら用心していても防ぎようがないからだ。樹生はスクールバス通学を楽しみにしているが、さすがにバス停で無防備に子供を立たせる数分間が怖かったし、サッカーの練習や試合も、本当にできるのだろうかと半信半疑になり、練習している間も変な車がグラウンドの周りに停まっていないかと気になって仕方がなかった。(浩司)

連続狙撃事件の時は、かなり異常な雰囲気でした。特に異常だったのは10月22日。朝6時前にバスの運転手が撃たれた後、業を煮やした警察は、メリーランドの現場周辺と幹線道路を封鎖し検問を行ないました。このため朝のラッシュアワーと重なり道路は大渋滞の麻痺状態！さらに毎朝元気なりサ・ベイデン嬢のラジオ交通情報では、「警察からどこが封鎖されているか言うなといわれているためお知らせできませんが、封鎖解除されているところをお知らせします。また今日は出勤時間をずらすか、家にいた方がいいです。」と言う始末。去年のテロ以来、非常事態だからと言う理由で行動制限をされることが時々ありましたが、幹線道路封鎖と言うのは、途上国の軍事国家か？と思わせるものでした。結局犯人は24日に捕まったのですが、以前、誤逮捕もあったのですぐには信じらず、翌日も子供を学校に連れて行くときキョロキョロしながら校舎に入り、心配でした。

この事件の一番の被害者は撃れた人たちですが、子供達も外遊びが出来なかつたり遠足が中止になったりかなり影響を受けました。去年は炭疽菌で毎日落ち着かなかつたし、今年は狙撃事件で10月は嫌な月でした。心配がなくなって本当に良かった。(美澄)

今年のパロウィーンもカボチャがいっぱい！



去年ほど熱心ではなかったのですが、今年のパロウィーンでもカボチャのカービングをやってみました。子供達の幼稚園でもそれぞれパロウィーンのイベントが行なわれ、10月31日夜は「トリック・オア・トリート」で、子供達はそれぞれパワーレンジャーと白雪姫のコスチュームをまわって近所を練り歩き、各家の玄関先で甘いお菓子をいっぱい貰いました（暫くは虫歯に要注意！）。

都会からの脱出



バージニアの紅葉を求めて

魔弾の射手の影に怯える首都圏での生活に、少しは息抜きも必要だ。8月に大きな旅行をしてしまったので、暫くは近場の探索に精を出そうと考えた。事故の修理からミニバンが我が家に戻った後の最初の週末、10月12、13日の2日間をかけて、バージニア州南西部、ロアノークとシャーロットビルに観光に出かけた。

ロアノークでは、定番メニューの「バージニア交通博物館」に行った。肝心の鉄道関連の展示が、リノベーション中で見れなかったのが悔やまれるが、この手の博物館には必ず置いてある模型列車の展示で、子供達は大満足だった。レキシントンで一泊し、翌日は「ナチュラルブリッジ」を見た。世界七不思議の1つで、なぜ自然にこんな大きな穴が開いたのかはよくわかっていない。今回の旅行の発案者の美澄ママが、最も行きたかった観光地だ。そして、最後は濃霧のシェナンドア山脈を横断し、山脈の東側の麓に位置するシャーロットビルを訪問、「ミッチー・タバーン」で18世紀頃のバージニアの典型的食事をご馳走になった後、第三代アメリカ大統領トーマス・ジェファーソンの生家で政界引退後の邸宅とな

った「モンティチェロ」を訪れた。個人的には、「モンティチェロ」の玄関を入ったところに飾ってあった18世紀のアフリカ地図が印象に残った。この頃のアフリカ内陸部は殆ど探査されてなかったので、真っ白なのだ。また、ジェファーソンは相当の才人だったようで、「モンティチェロ」の設計自体を手がけ、さらに屋内に様々な仕掛けをこらしていた。シャーロットビルの紅葉は綺麗だと聞かされて来たのだが、今年の秋は去年に比べると寒くないので、意外と紅葉は進んでいなかったのが残念だ。

運転手を務めた浩司パパは、実は修理から戻って来たミニバンのハンドリングが異常を来しているのに1日目に気付き、かなり恐る恐るの運転を強いられた。右に切ったハンドルを左に戻す時や、停止状態から急にアクセルを踏む時に、右前輪の辺りから大きな振動音が感じられたのだ。幸い、サスペンションがガタガタになったのが2日目の夜、自宅から2マイルほどのレストランの駐車場に着いてからだったので事なきを得た。さっそく翌日修理屋に持ち込み、半日で修理は終わった。(浩司)

任期延長、健康診断の結果は？

世銀での任期を1年延長するために、JICAからは健康診断受診という条件を付けられた。この辺は実は「連携協力調査員」などというJICAの技術協力専門家派遣と似た解釈で派遣されているから健康診断が必要になるのであって、JBICのように世銀への職員派遣を全て出向扱いとしている場合は、派遣期間中健康診断を一度も受けなくてもよいらしい。これで、健診結果が非常に芳しくなかった場合、世銀が受け入れOKとしている職員を、JICAは強制的に帰国させることなどできるのだろうか。

別にそれに挑戦しようと思ったわけではないのだけれど、健診結果は予想通りだった——脂肪肝と善玉コレステロール過少。そりゃそうでしょ、パパの体重は、赴任時の78kgから86kgに増加している。特に昨年夏に健診受けた時から比べると7kgの増加だ。(但し、昨年の体重は、その前に2ヶ月ほどジョギングをやって体重を3kg減らした上で受診した、言わば「水増し」数値である。)

さすがにはけるズボンがなくなってきたことに危機感を持ったパパは、パパの健康状態を気にするマ

マとも協議の上、本気で減量に取り組むことになった。食事の量を減らすとともに、これまでなかなか時間を取れなかったジョギングを、主に世銀建物の中にあるフィットネススタジオの更衣室&シャワーを利用して、夕方ワシントンのリンカーン記念堂&ワシントン記念塔周辺でやることにした。オフィスでも周りのスタッフに減量計画を公言し、午後5時から1時間少々の間はオフィスを不在にする環境を作った。そして、月毎の体重変化を「サンチャイ通信」で発表することとした。(浩司)

パパの体重

85 kg

(11月10日現在)

パパの自己申告書(その3)

日本以外のドナーを自分が担当することには異議あり!

世銀の私のセクションには、私が赴任する以前から国際協力銀行(JBIC)の出向ポストがあり、工藤さんという日本人スタッフがいらしたのだが、10月下旬に3年の契約期間を終了し、帰国された。後任の補充がJBIC側の事情によって行なわれないため、工藤さんが担当していた仕事をほぼ全て私が引き継ぐことになった。日本がトップドナーとして多額の信託基金拠出やJBIC協調融資を行っていた間は2人の日本人スタッフもそれなりに意味があることだったのだが、今や信託基金、協調融資いずれにおいても日本はトップではなくなっている。工藤さんと私は同じ日本担当でも、財務省、外務省、JBIC、JICA等、相手機関毎に分担して仕事をしてきたが、工藤さんが帰国し、私が任期を1年延長したことで、日本関係は全て私が引き継ぐことになった。一方、工藤さんは欧州の幾つかの国も担当として持っていた。私も同様である。工藤さんが去った後、イアン課長は欧州ドナー対策を強化する目的で欧州出身の職員をリクルートする考えを持っていた。だから工藤さんや私が持っていた欧州諸国は、その職員の手へ渡り、私はもっと日本に専念させてもらえるものと当然思っていた。

ところが、工藤さんの離任を翌週に控えた10月のある日、ECとベルギーを担当していたC女史が突然「家族の急用」という理由で1週間も休んだのを契機に、私は突然この2つのドナーを相手に11月第1週に予定されていた定期協議を手伝わされることになった。さらに、工藤さんの離任前日、私はイアン課長から呼び出され、「君が担当国は他の職員と比べて少ないから、もう少し担当した方が良い」と半ば脅しともとれる言い方で担当国を増やされた。結果、私は日本、ドイツ、アイルランドの他に、手放せると期待していたデンマークを引き続き担当することになり、加えて工藤さんが「一時的」という条件で担当していたフィンランドを引き継ぎ、さらにスウェーデンとオーストラリアも担当することにさせられた。「フランスもどうか」と聞かれたので、「自分はフランス語が話せない」という理由で辛うじて拒否した。

確かに、単純に国の数だけ見たら私の担当国数はそれほど多くない。しかし、日本の場合は各省庁、援助機関、業界団体、シンクタンク、NGOが全て縦割りで世銀へのアプローチをして来るので、欧州の援助国と比べて組織をあげて送ってくるミッションの数が多い上に、横の連携があまり取れていないので、特に外務省が送って来るミッションに対して財務省に「仁義」を切ったりするような調整も必要である。

欧州各国は窓口が外務省でだいたい一本化されている。また、JICAやJBICのような援助実施機関は外務省の外局となっているし、特に北欧の場合はNGOや民間セクターとの対話が政策形成過程に既に組み込まれているので、外務省が代表して編成する定期協議ミッションには、その国の国内の全てのステークホルダーの意向が反映されている。日本の場合は、JICAはJICA、JBICはJBIC、外務省は外務省、経団連は経団連、全て別のミッションで、横の繋がりがありません。また、欧州諸国の場合は、どの課題について世銀の誰とコンタクトすれば良いのかがはっきりしたら、後は当事者同士が普段から電子メールでのコンタクトを欠かさずしており、別に第三者が介在しなくても気軽にDCと首都の往来できる。日本の場合はそうはいかない。既に誰がコンタクトパーソンかがはっきりしていて、名刺の交換と

かを以前したことがあったとしても、ミッションを出すとなったら誰かが日程アレンジをしなければいけない。こんな日本の状況が、一朝一夕に改善されるとはとても思えない。

日本は手間がかかるのだ。イアン課長は何かにつけて「お前がその案件をアレンジすることでいくらの資金を引き出せるのか」と費用対効果をさかんに気にする。そのマインドが大切なのは私にもわかっている。だったら「費用対効果の面であなたとは付き合うことはできません」と彼がはっきり日本の各機関に言ってくれるかということ、そんなことは絶対あり得ない。「そんな奴となんでお前は付き合っているんだ」を顔を赤らめて私に詰問するのが関の山なのである。

イアン課長から新担当国の配分を受けてからというもの、日本を向いた仕事は殆どできていない。それどころか、「カナダ（との定期協議の準備）はどうなっている」とか「ノルウェー（との定期協議）の日程案を見せろ」とか、自分の部下に何を任せたか把握していないのではないかと首を傾げる発言を連発している。日本も日本なのだが、この課長もこの課長である。日本絡みの緊急な懸案事項が少ない今のうちはまだいいが、これで日本が本格的に動く時期が来たら、デンマークだフィンランドだノルウェーなどとは言っていられなくなる。そんな時期に、G女史みたく、私も「家族の急用」だの「自身の急病」だのと言って突然休んでやろうかとすら考える。しかし、結局は日本を誰もフォローしなくて、職場に復帰した自分にしわ寄せが行くのだと考えると、勇断することができない。自ずと残業時間が長くなり、休日出勤すらするようになりつつある。(浩司)

編集後記～山田家短信

- 連続狙撃事件の影響で、10月19日に当地で予定されていた「志道学院剣道トーナメント」は残念ながら中止となりました。一時はオークトンから2チーム団体戦にエントリーさせるべく練習仲間を説得し、我が家に仲間を呼んで昨年の日本選手権のビデオ上映会を企画し、最近指揮を任されるようになってきた成人組の練習でも実戦を想定した仕掛け技の練習を取り入れましたが、ワシントン近郊の住民よりもアメリカ東海岸の各地からエントリーする選手はやっぱりワシントンに来るのが怖いようで、こればかりは仕方がありません。(浩司)
- 最近の「サンチャイ通信」ではあまり扱っていなかった千智に関する話題を1つ。お兄ちゃんの後を追ってウェストゲートに入園した千智は、友達とのコミュニケーションを通じて「バイリンガル」への道を着実に歩んでいるのですが、最近、時折スペイン語の単語すら口ずさむようになってきました。樹生の時はなかったスペイン語のクラスが毎週火曜日に設けられており、少しずつ習っているようなのです。アーリントンではヒスパニックの人口がそこそこ多いので考えてみれば当たり前のカリキュラムではあります。樹生に新しい英単語を教えられることはしばしばですが、JICAの職員向けスペイン語研修をドロップアウトした経験を持つパパとしては、遂に千智にまで追い抜かれるかと寂しい気がする今日この頃です。(浩司)
- 11月1日、ついにマッサージの国家試験を受けました。結果は3点及ばず落ちてしまいました。制限時間3時間をギリギリまで使い160問全問答えたのですが、ダメでした。コンピューターテストなので終るとすぐ結果が出て、その日の内に2回目のテストの申込みをしました。次のテストまで4~6週間あるのでまた勉強です。このテストは毎日やっており、自分で日時を設定できるので、どんどん試験日を後にずらしていったのですが、落ちました。クラスメートは殆ど合格しているのでやはり語学力の差と授業終了から受験まで時間を開けすぎたことが原因でしょうか？ちょっと落ち込んでいます。(美澄)